2023 年 中野若者会議

報告書

令和６年３月

中野区　子ども教育部　育成活動推進課

認定 NPO 法人カタリバ

中野区 NAKANO CITY × 未来は、つくれる。 KATARiBA Shape the Future

目次

①中野若者会議とは

理念・概要・テーマ …… P.2
昨年度までの実績 …… P.5
今年度の参加者概要 …… P.6
今年度の活動モデル …… P.7
各回実施内容 …… P.9

②チャレンジ詳報

1．　若者がチャレンジする中野へ …… P.17
2．　若者が地域と出会う情報発信とは？ …… P.21
3．　環境にやさしいまちづくり …… P.25
4．　チャレンジする中高生を応援しよう …… P.28

③感想・振り返り

参加者アンケート …… P.32
観覧者アンケート …… P.37

①中野若者会議とは

理念・概要

大学生・社会人の視点を地域づくりにつなげるために、中野区ではどのようなアクションが必要なのでしょうか。

「若者会議」は、若者ならではの視点を区政や地域に生かすとともに、若者と地域のつながりを構築していくため 2022 年度に始まったプロジェクトです。2023 年度は、昨年度提言した「若者会議のあり方」をもとに 4 つのテーマに分かれて活動しました。

今年度のテーマ

メンバーは、自分自身の興味・関心を原点に、取り組みたい「チャレンジ」を自分で選択していきます。フィールドワークやインタビューを経てテーマを深め、自分たちにしかできない「アクション」を実践する過程で、区長に対する提言をまとめていきます。

1	**若者がチャレンジする中野へ** 自分も楽しみ、地域がよくなるチャレンジとは？地域活動について先進事例を勉強したり、地域に飛び出して活動したりしながら、若者が活動しやすい地域づくりを進めます。
2	**若者が地域と出会う情報発信とは？** 中野区の情報発信を若者に届けるには、どんな工夫が必要なのでしょうか。「中野大好きナカノさん」など SNS 等活用方法を検討しながら、新たな魅力発信のアイデアを提言します。
3	**環境にやさしいまちづくり** 持続可能な未来の環境のために、中野区ではどんな取組が必要なのでしょうか。「ゼロカーボンシティ」の普及啓発にチャレンジしながら、自らができることを考え、区への提言をまとめましょう。
4	**チャレンジする中高生を応援しよう** 学校の枠を超えて「ハイティーン会議」へ集まった中高生の自主的な活動に伴走します。子どもたちが意見表明しやすいまちづくりのためのポイントを区へ提言します。

実施の背景

中野区基本構想（令和３年３月23日改定）において、「10年後に目指すまちの姿」が４つ定められました。

「(2) 未来ある子どもの育ちを地域全体で支えるまち」において、「子どもたちは、未来に向けて、チャレンジしながら成長しています。子育て家庭は、地域社会に支えられ、安心して子育てをしています。子どもの育ちを、未来の希望として、地域全体で支えるまちを築いていきます。」という記載とともに、若者に対する考え方が下記のようにまとめられました。

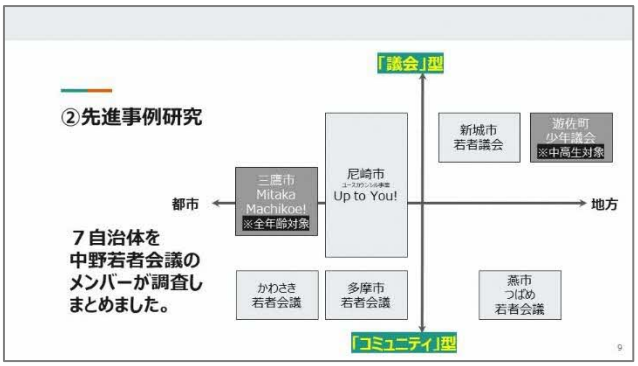
若者のチャレンジを支援します

若者は、幅広い交流や様々な活動の機会などを通じて、チャレンジしながら成長しています。一人ひとりの課題の解決に向けて支える体制が整っています。

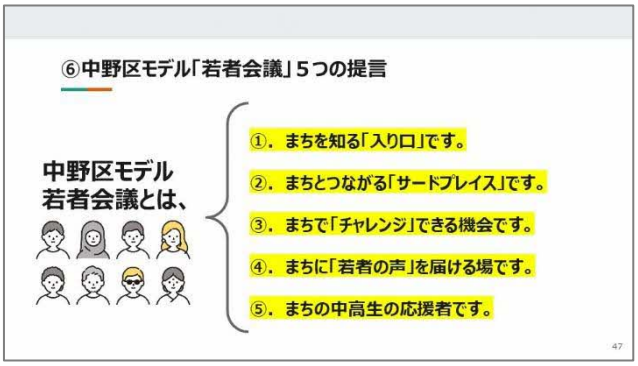
昨年度の実績

中野区において、新しく始まった若者会議をどんな場として運営していくべきか、６ヶ月間にわたり「若者会議のあり方」について構想を進め、区長に提言を行いました。

「若者会議のあり方」提言のポイント



構想を進めるにあたって、全国の先進事例の研究を進めました。特に兵庫県尼崎市からはゲストをお招きし、先行事例を伺ったうえで調査を進めました。



最終的に５つのポイントを提言しました。地域とつながる機会を得にくい若者のために、若者会議がハブになっていくという趣旨です。

実際に 2023 年度のプログラムは、この提言書に沿って企画進行しました。若者会議によって構想された若者会議が、ついに本格的に始まります。

今年度の参加者概要

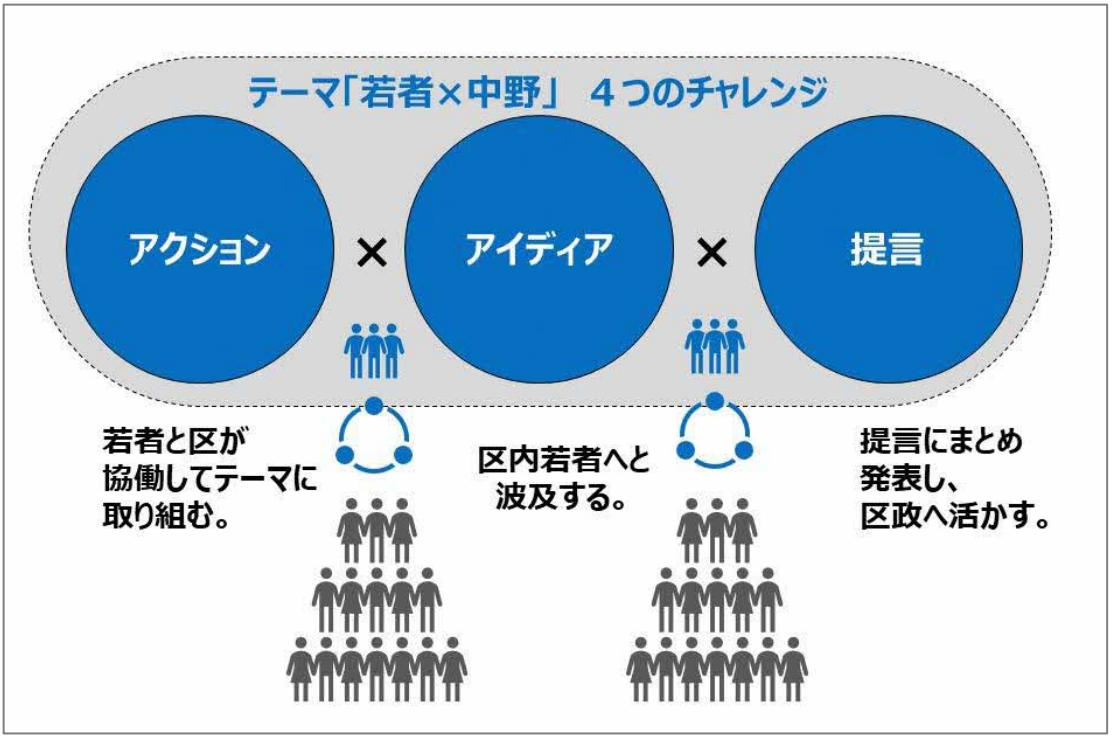
20 名が申し込み、うち 17 名が活動を最後までやり遂げました。

	区内在住	区外在住	合計	特記事項
学生	5	0	5	・初めて留学生が 1 名参加
一般	14 (11)	1	12	・うち 5 名が 1 期からの継続参加 ・およそ半数が子育て家庭 ・ハイティーン会議の修了者 1 名
合計	**19 (16)**	**1**	**20 (17)**	()の数字は、活動を修了した人数

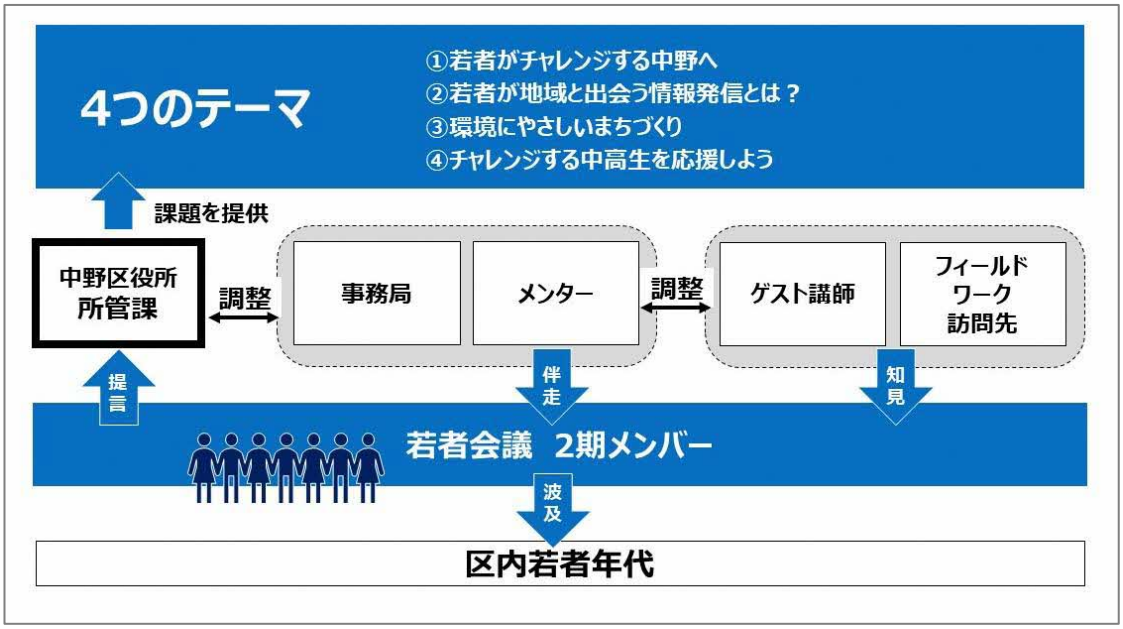
今年度のチラシのモデルとなったのは、若者会議 1 期のメンバーです。また、1 期メンバーのはたらきかけにより、区内にある新渡戸文化中学校・高等学校様にご協力いただき、撮影を行いました。

今年度の活動モデル

４つのテーマにもとづいて、若者と区役所所管課が協働してアクションを起こし、区長への提言を行うのが 2023 年度中野若者会議の活動モデルです。



特に先進事例である区外で活動する団体へのフィールドワークや情報交換を行うことを重視し、テーマごとのメンターが活動を支えながら、プログラムを進行しました。



年間スケジュール

中野若者会議は 8 月から 1 月にかけて、毎月第 3 日曜日に計 7 回のプログラムを実施しました。スケジュールの合間には、多数の自主活動も行われました。

また、同日開催となったハイティーン会議との連携・協働も企図しました。

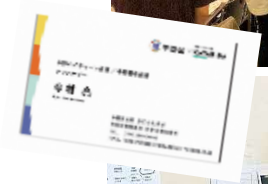
	ハイティーン会議		若者会議		全体の流れ
8 月 11 日（金）			第 1 回	14:00～17:00	オリエンテーション
8 月 20 日（日）	第 1 回	10:00～13:00	第 2 回	14:00～17:00	オリエンテーション
9 月 17 日（日）	第 2 回	10:00～13:00	第 3 回	14:00～17:00	アクション
10 月 15 日（日）	第 3 回	10:00～13:00	第 4 回	14:00～17:00	アクション
11 月 19 日（日）	第 4 回	14:00～17:00	第 5 回	14:00～17:00	アクション→アイディア
12 月 17 日（日）	第 5 回	10:00～12:00	第 6 回	10:00～12:00	意見表明
12 月 17 日（日）	報告会	13:00～17:00	見学	13:00～17:00	意見表明
1 月 21 日（日）	見学	14:00～17:00	報告会	14:00～17:00	提言

『わかもののまちのつくり方　ハンドブック-日本版ローカル・ユースカウンシルのつくり方と考え方-』（2018 年 6 月発行／NPO 法人わかもののまち）を参考に
若者の地域参加の基本的な考え方や目標について
メンバーの認識をあわせながらプログラムを進行しました。

各回実施内容

DAY1　8 月 11 日 14:00～17:00

お互いを知り、つくりかたを学ぶ。



① 名刺の授与・自己紹介シート

2 期メンバー専用の名刺を授与するとともに、
お互いを知り合うために、自己紹介シートを作成して
オリエンテーションを行いました。

② 中野若者会議の構想紹介

（高野あいさん/若者会議 1 期メンバー）
1 期メンバーから、中野若者会議はどんな場で
あるべきかの構想について発表を行いました。

③ ゲストトーク（１）

（土肥潤也さん/NPO 法人わかもののまち）
テキストの著者でもある土肥潤也さんから、
わかもののまちをつくる基礎についてレクチャーして
いただきました。

④ ゲストトーク（２）

（西山なつみさん/多摩市若者会議）
若者会議の先進地である多摩市の事例について
レクチャーしていただきました。

⑤ 課外活動

終了後はセントラルパークで、希望者による懇親会をかねたピクニックを行いました。

DAY2　8 月 20 日 14:00～17:00

中野を知り、テーマを選ぶ。

① テーマ紹介

4 つのテーマについて、区役所各課からご担当にお越し頂き、オリエンテーションを行いました。

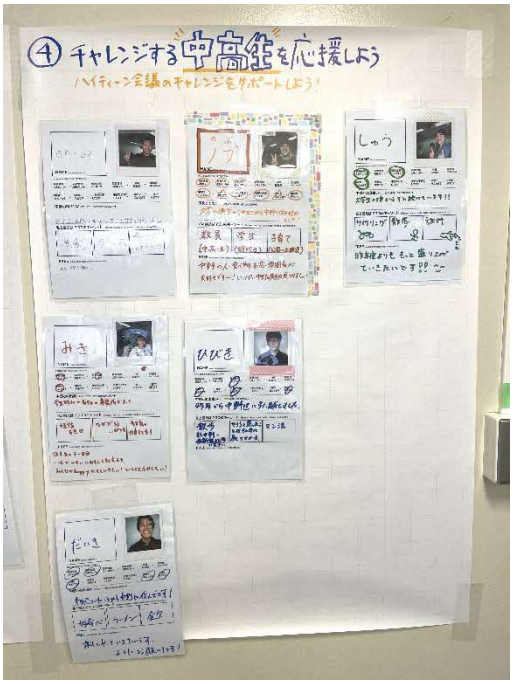
1	**若者がチャレンジする中野へ（地域活動推進課）**
	若者会議メンバーで任意団体を設立し、自分たちが必要だと思うアイデアを実践に移し、地域活動を実施してみようというテーマ。 公益性が優れた提案であれば、中野区で新たに始まった「チャレンジ基金助成」の対象になりうることをご説明いただきました。
2	**若者が地域と出会う情報発信とは？ （文化振興・多文化共生推進課　シティプロモーション係 ・育成活動推進課　若者活動支援係）**
	若者に届けることを目的に、中野区の公式 SNS への投稿企画を作成しながら、提言を行おうというテーマ。 中野区のシティプロモーションの顔である「ナカノさん」にもお越しいただきました。
3	**環境にやさしいまちづくり（環境課）**
	全国に先駆けてゼロカーボンシティ宣言を行った中野区ですが、高い目標に向けて施策は十分ではありません。そこでまずは家庭の省エネ・電気代の削減をめざした小さな活動を、実際の古民家を改善しながら提言しようというテーマ。
4	**チャレンジする中高生を応援しよう（育成活動推進課　若者活動支援係）**
	「ハイティーン会議」に集まった中高生の自主的な活動に伴走しながら、子どもたちが意見表明しやすいまちづくりのためのポイントを区へ提言しようというテーマ。

② テーマ分けグループワーク

区役所各課からの情報提供を受け、
自分たちが活動したいテーマはどれか、
グループワークを行いました。

③ チーム結成

最終的に結成したチームごとに
紹介シートをまとめ、お互いがなぜ
このテーマでの活動に決めたのか、
紹介しました。
このチームで本格的な活動が
ついに始まります。



④ 多摩市若者会議訪問

終了後の課外活動として、有志で
多摩市若者会議が活動している
「Michi カフェ」を訪問しました。

DAY3　9 月 17 日 14:00～17:00

中野区内へフィールドワーク！

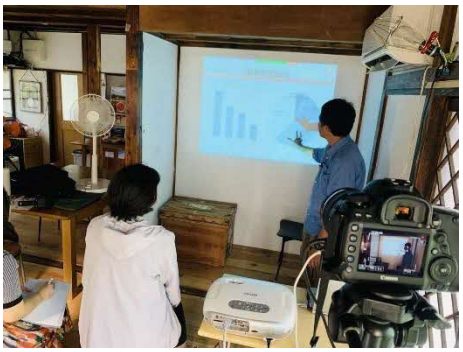
① チーム紹介

この日から、チームごとに分かれての活動が本格化していきます。まずはどんな顔ぶれでチームを結成したか、お互いに紹介しました。

② 区内フィールドワーク

４つのテーマに沿って、区内の事例を知るためのフィールドワークに出発しました。チームごとに現地解散し、それぞれ懇親会等を行いました。

	チーム	**訪問先**
①	若者チャレンジ	なかの ZERO
②	情報発信	中野ブロードウェイ
③	環境	中野グリーンアソシエーション
④	中高生サポーター	中野ハイティーン会議



DAY4　10 月 15 日 14:00～17:00

区内外の先進地へフィールドワーク！

① 提言に向けたオリエンテーション

この回の会場は、「みらいステップなかの」。
3 ヶ月後に迫った提言プレゼンテーションに向けて、
準備方法の確認を行いました。

② フィールドワーク

4 つのテーマに沿って、区内外の事例を
知るためのフィールドワークに出発しました。
活動されている方の声を聞く貴重な機会と
なりました。

	チーム	訪問先
①	若者チャレンジ	喫茶おおねこ（武蔵野市）
②	情報発信	地域と映像（武蔵野市） むさしのプレイス（武蔵野市）
③	環境	古民家の現地視察（区内）
④	中高生サポーター	子ども・教育政策課（区内）

DAY5　11 月 19 日 14:00～17:00

ハイティーン会議と合同で中間発表

① ゲストトーク

（相川梓様/中野区子どもの権利委員会 委員）

子どもが自分の意見等を表明し、
参加する機会を確保することを定めている
「中野区子どもの権利条例」について
相川委員から学びました。

② 提言準備

２ヶ月後に迫った提言プレゼンテーションに向けて、
テーマごとに議論を進めました。

③ 中間発表

若者会議・ハイティーン会議の合同で、
最終発表に向けた中間発表を行いました。

④ 中野若者会議オープンカフェ

終了後の課外活動として、若者会議の活動に関心を持つ方と交流する
「オープンカフェ」を開催しました。

DAY6　12 月 17 日 10:00～12:00

提言を準備しよう！

① ゲストトーク

（原田伊織様/尼崎市ユースカウンシル）

提言を実現へと結びつけた先進地である
尼崎市の事例を学びました。

② 提言準備

１ヶ月後に迫った提言プレゼンテーションに
向けて、テーマごとに議論を進めました。

③ 中野ハイティーン会議報告会見学

終了後の課外活動として、中野ハイティーン会議の報告会を見学しました。
中高生の熱のこもったプレゼンテーションに触れて、若者会議メンバーも
自分たちの発表を見直すきっかけになりました。

DAY7　1 月 21 日 14:00～17:00

区長に提言をプレゼンテーションしよう！

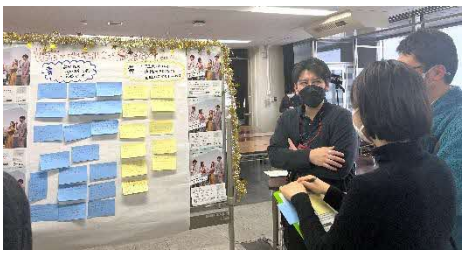
① 提言プレゼンテーション

区長・教育長・所管課へのプレゼンテーションを４チームがやり遂げました。

プレゼンテーションの詳細は次ページをご参照ください。

ゲスト：　両角達平先生（日本福祉大学 社会福祉学部 専任講師

高野義裕様（多摩市若者会議 合同会社 Michilab 代表）



② 対話タイム

参加者から付箋でコメントをもらいながら対話しました。

③ 修了証の授与

若者会議の５ヶ月間をふりかえり、お互いへの

感謝を伝えました。最後には事務局より

全員に修了証を授与しました。

④ 懇親会

終了後の課外活動として有志で懇親会を行いました。

②チャレンジ詳報

2023 年度の若者会議では、4 つのテーマに分かれてチャレンジしました。この章では、それぞれの歩みを紹介します。

1. 若者がチャレンジする中野へ

自分も楽しみ、地域がよくなるチャレンジとは？地域活動について先進事例を勉強したり、地域に飛び出して活動したりしながら、若者が活動しやすい地域づくりを進めます。

メンバー

みなみ	（地元中野の大学生）
よっぴ	（バーテンダー）
とも	（3 児のパパ）
コウちゃん	（中国からの留学生）
ひろき	（大学生。進学で上京）
あゆみん	（1 児のママ）

チャレンジのきっかけ

実際に地域活動を企画・実践することを目指すテーマにもとづいて、地域で何かチャレンジしたいという想いの強い方々が集まりました。当初から課外活動が多くなることが想定されていましたが、仕事・家庭・学業の都合をつけながら、中野若者会議にしっかりコミットしていこうとするチームとして結成しました。

アクションの内容と結果

時期	内容	補足
8 月	チーム結成・任意団体設立	
9 月	チャレンジ基金助成　申請	
10 月	チャレンジ基金助成 プレゼンテーション審査	任意団体「若者会議チャレンジ実行委員会」として採択を受ける
11 月	自主イベント 2 つの企画	
12 月	イベント募集広報の開始	「ためまっぷなかの」および「activo」を活用
下記は中野若者会議終了後の課外活動として実施		
1 月	イベント募集広報	
2 月 12 日	自主イベント① 「プロボノ」講演会	開催場所：中野区産業振興センター 講演者：認定 NPO 法人サービスグラント 上原一紀さん
2 月 25 日	自主イベント② 高齢者×食育	開催場所：鷺宮高齢者会館 講演者：キユーピー株式会社 前田淳さん

チャレンジのポイント

アイデアにとどまらず、任意団体を設立し、実際にイベントを実施したことがポイントです。

①「プロボノ」講演会

自分の仕事のスキルや経験を、地域や社会のために活かすボランティア活動のことを「プロボノ」と言います。中野区在勤者が地域と出会い活動するきっかけをつくりました。

③ 高齢者×食育

管理栄養士を目指す大学生が、高齢者のための食育に注目して、キユーピー社の出張講座を実施しました。

報告会での提言

実際に地域で区立施設を利用したり、助成金を活用したりするプロセスを通して、若者が地域でチャレンジしやすくなるための仕組改善についてプレゼンテーションしました。

関連課からのフィードバック

提言の要旨	担当部（担当課）	説明・理由
チャレンジ基金助成の申請数を増やすために、対象を若者年代（おおむね 18 歳～39 歳）にしぼった枠を設けるのはどうか。 →こうした施策は尼崎市をはじめ全国に事例があり、「ユースファンド」と総称されている。	地域支えあい推進部（地域活動推進課）	チャレンジ基金は、区民や事業者のみなさまからの寄付金を積み立てて、区内の公益活動団体に助成する仕組みとなっている。さまざまな思いから始まる公益活動を資金面から支援するもので、団体の構成メンバーや公益活動の対象者を年齢層で区切ることなく幅広く支援することを考えている。
チャレンジ基金助成の申請数を増やすために、団体だけでなく個人でも申請できるよう申請要件の緩和を検討してはどうか。 →チャレンジ基金助成は、初年度予定していた満額を助成できていない。	地域支えあい推進部（地域活動推進課）	チャレンジ基金は、区民や事業者のみなさまからの寄付金を積み立てて、区内の公益活動団体に助成する仕組みとなっている。 公益活動を始めたいと思う方については、区民活動センターや社会福祉協議会のボランティアセンターへおつなぎし、地域活動を行っているさまざまな人々・団体とつながり、公益活動にチャレンジしていっていただきたい。
チャレンジ基金助成の申請には説明会参加が要件として定められていたが、開催日時が平日日中・区役所開催に限られていたため、仕事や学業で忙しい若者年代は参加しづらかった。夜間や土日の開催や、オンラインでの開催も検討してほしい。	地域支えあい推進部（地域活動推進課）	令和6年度申請分の説明会は、平日日中のほか平日夜間も行う予定のため、提言内容は実施済みとする。 区民による公益活動には、発展性や継続性が求められる。そのためには、活動に多くの賛同者を巻き込むこと、活動するメンバーが互いに役割を分担し、仕事や学業に無理のない範囲で活動することが大切である。また、助成金にこだわらず、できることから始めてみることも長続きの秘訣かと考える。

提言の要旨	担当部 （担当課）	説明・理由
チャレンジ基金助成に申請する活動歴の浅い団体をサポートするため、区職員のみならず、外部の協力者（若者会議・ハイティーン会議 OBOG、地域のNPO、大学生など）がサポートする体制を構築できないか。	地域支えあい推進部 （地域活動推進課）	区内各所で区民によるさまざまな公益活動が繰り広げられており、活動経験が豊富な団体とつながり、連携や協力することにより、活動歴が浅い団体のスキルアップが図れるものと考えることから実施済みとする。 区民活動センターや社会福祉協議会のボランティアセンターを通じ、さまざまな団体とつながることも可能ですが、既存の団体や地域とつながるために団体自らがチャレンジすることが、その後の団体の活動の幅を広げることにつながるものとも考える。
区施設の新規利用を促進するため利用申請フローを改善してほしい。 →具体点 ・利用申請方法が所管ごとに異なるが、区全体で統一できないか。 ・申請が対面に限られており、ネット申請できないか。 ・施設によっては平日日中しか申請できないが、いつでも受け付けられるネット申請等の手続に移行できないか。	地域支えあい推進部 （地域活動推進課）	区民活動センター、高齢者会館及びふれあいの家の集会室については、現在平日昼間のみに窓口で申請を受け付けているが、文化・スポーツ施設と同様に、インターネットによる利用申請手続きが可能となるよう、予約システムの導入について検討している。
区内在勤者は地域との接点が少なく、区としての機会損失となっている。在勤者がそれぞれの業務スキルで地域に貢献し、自らもキャリアアップする「プロボノ」の活動を活発化できるよう、仕組み化することはできないか。	地域支えあい推進部 （地域活動推進課）	区民活動センターや社会福祉協議会のボランティアセンターを通じ、地域活動を行っているさまざまな人たちや団体とつながることが可能。 また、中野区と東京都等が連携して設置している、「まちの腕きき掲示板」（ウェブサイト）も有効に活用していただきたい。
若者会議１期が提言した「若者会議のあり方」提言書に沿った理想像を実現するため、複数年度にわたる若者会議の中期計画を策定してはどうか。	子ども教育部 （育成活動推進課）	単年度だけではなく、複数年度に渡って議論ができるよう、事業運営及びテーマ設定を行う。

2.若者が地域と出会う情報発信とは？

中野区の情報発信を若者に届けるには、どんな工夫が必要なのでしょうか。「中野大好きナカノさん」など SNS 等活用方法を検討しながら、新たな魅力発信のアイデアを提言します。

メンバー

ななみ	（地元中野の大学生）
けんぽ	（地元中野で仕事してます）
しょうた	（2 拠点生活デザイナー）
ゆうま	（1 児のパパ）

チャレンジのきっかけ

情報発信をテーマに、普段は区や地域の情報に触れる機会が少ないと実感しているメンバーが集まりました。

特に大学生年代が地域の情報から分断しているという点を深堀りしていきました。

アクションの内容と結果

時期	内容	補足
8 月	チーム結成	
9 月	区の X（旧 Twitter）の試験投稿	中野区若者情報発信アカウント（Nakano Youth News）への投稿を行った。
10 月	情報発信の問題分析	大学生へのヒアリング
11 月	情報発信の可能性検討	
12 月	区役所とのヒアリング	
1 月	提言プレゼンテーション	

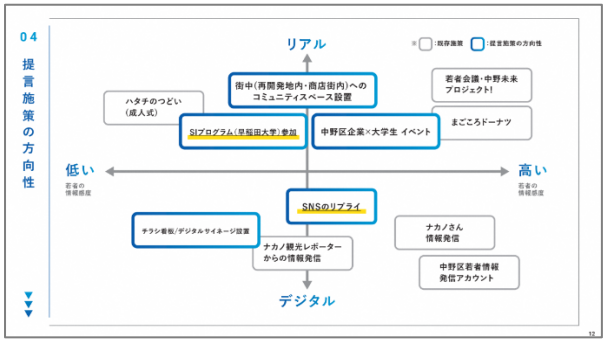
チャレンジのポイント

実際に区アカウントを試験的に運用しました。
また、情報発信にとどまらず、大学生年代が
なぜ地域に関心を持っていないか、
深く掘り下げて課題分析を行いました。

報告会での提言

情報発信を試行した観点から、
その反応を捉えて、若者に届く
情報発信について提言を行いました。

また、若者とのコミュニケーションに
おいてはデジタルのみならずリアルな
接点も重要である点に着眼しました。



これらの提案をアイデアで終わら
せず、実際のチラシ案のイメージを
デザイン化して提示しました。

関連課からのフィードバック

提言の要旨	担当部（担当課）	説明・理由
「ナカノさん」「中野区若者情報発信アカウント」などの区 SNS（X,Instagram,Facebook 等）でリプライしてはどうか。 →SNS 上でのコミュニケーションとして、“リプライ（コメント返し）”（最低でも定型文）を行う。昨今、SNS では運用の目的達成において、ユーザーとの双方向コミュニケーションが重要視されているが、区のアカウントから発信するのみではなく、コメント返し等のコミュニケーションを取ることにより、ユーザーとの関係性構築の機会を生み出すため。	区民部（文化振興・多文化共生推進課シティプロモーション係）	リプライするためのルール作りがされていなかった。「ありがとう！」「いいね」「そうなんだ」「なるほど」などの、簡単な定型文を送れるよう、ガイドラインを作成する。
	子ども教育部（育成活動推進課）	若者情報発信アカウントは、情報発信のみの SNS として運営している。返信による情報発信の効果は、関係所管と協力しながら、検討していく。
SI プログラム（早稲田大学学生寮）に参加してはどうか。 →同プログラム（セミナーor ワークショップ形式）にて区の活動等を直接大学生へ伝える。若者（特に大学生層）は、セミナーや友人からの口コミ等のリアルから得た情報の方が SNS よりも興味を惹かれるとの声があった。SNS の施策と平行して、ターゲットを絞ったリアル施策も有効性が高いため。	区民部（文化振興・多文化共生推進課シティプロモーション係）	ヒアリングも兼ねて SI プログラムに出席することを検討している。
	子ども教育部（育成活動推進課）	大学生への情報提供の方法については、効果的にアプローチできるよう検討していく。

提言の要旨	担当部 （担当課）	説明・理由
若者が利用できる区立施設を夜間まで開館して欲しい。 →図書館は 21:00、まごころドーナッツは 19:00 に閉館となるが、大学生のニーズは夜間帯の方が高い。夜にセントラルパーク等の野外に集まっている。	地域支えあい推進部（地域活動推進課）	区民活動センターは地域の自主的な活動を支援するため、集会室の貸出しを行っており、午後10時まで利用可能である（要予約）。使用申請方法は以下の通り ①団体登録による使用 登録団体（5 人以上かつ構成員の半数以上が区内在住・在勤・在学）が、2 カ月前に開催の抽選会に参加し、集会室を予約し使用する。 ②特例使用 団体登録をしていない団体や、5人未満の少人数での使用。使用希望日の 21 日前から予約が可能。なお、申請者は区内在住・在勤・在学が条件。
若者向けにデジタルサイネージを設置できないか。（チラシ/看板でも可） →若い世代にはリアルでの情報収集が有効であることから、若者が集まっている場所へデジタルサイネージ等の広告物を配置する（区からの情報や、ためマップに登録されたチラシ等を掲載）。チラシではなく、デジタルサイネージにすることで、視認性向上による訴求・ブランディング効果向上やチラシ貼り替えなどの人件費削減、環境配慮などが見込めるため。	子ども教育部（育成活動推進課）	若者への情報提供の方法については、効果的にアプローチできるよう検討していく。
中野区企業×大学生イベントを区主催で開催できないか。 →就職前に区内企業等との繋がりを持たせ、今後の区への職・住の定着を目指すため区内企業×大学生のイベント開催（就職相談、企業紹介、ワークショップ、ミニインターン等）。大学生層はリアル施策が有効なため。	区民部（文化振興・多文化共生推進課シティプロモーション係）	協働事業「ナカノミライプロジェクト」の中で検討していく。一部イベントで企業と大学の連携を予定している。
街中（再開発地内・商店街内）に大学生を主たる対象としたコミュニティスペースを設置できないか。 →大学生が最も集まる中野駅周辺にコミュニティスペースを設置することにより、区側も常時、大学生への直接アプローチが可能となる。	区民部（産業振興課）	区内商店街については、有料利用も含めコミュニティスペースを設置している振興組合もある。

3.環境にやさしいまちづくり

持続可能な未来の環境のために、中野区ではどんな取組が必要なのでしょうか。「ゼロカーボンシティ」の普及啓発にチャレンジしながら、自らができることを考え、区への提言をまとめるテーマです。

特に区内においては家庭からの CO_2 排出量の比率が半数を占めることに注目し、電気代の削減を実験しながら活動しました。

メンバー

けんちゃん　（推しは MGA・つけ麺男子）
けいちゃん　（1 歳児の母・筋トレ女子）
たくちゃん　（本を積んでおく系男子）

チャレンジのきっかけ

環境という日常生活とは縁遠いようにも感じられるテーマに対して、さまざまな側面から取り組んでいこうとするメンバーが集まりました。

アクションの内容と結果

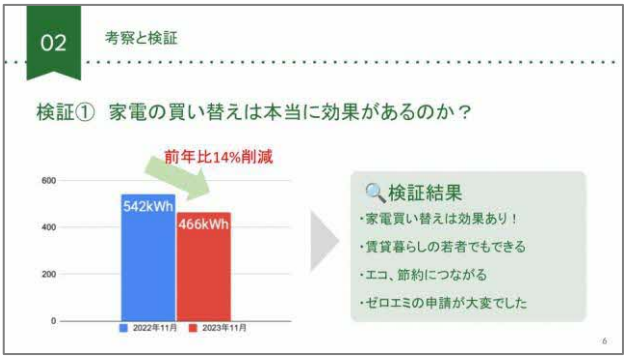
時期	内容	補足
8 月	チーム結成	
8 月	古民家　現地視察	
9 月	DIY 勉強会	中野グリーンアソシエーション様に、断熱による電気消費の抑制について相談
10 月	花と緑の祭典視察	
11 月	古民家　家電買い替え検証	都エコポイント制度の利用支援等
12～1 月	アンケート	
1 月	提言プレゼンテーション	

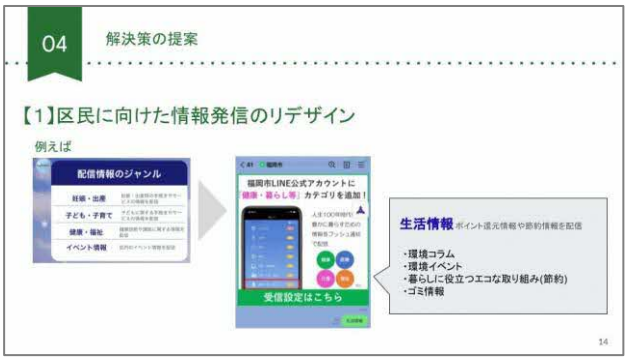
チャレンジのポイント

古民家の電気代削減については、
リフォームなど様々な可能性を提示しながら、
最終的には家電の買い替えをコンサルティング。
エコ・節約の成果を挙げました。
区とのコミュニケーションを密にして、課題と対策が
ちぐはぐにならないよう丁寧に進行しました。

報告会での提言

古民家での検証における、
家電買い替えによるエコ・節約の効果を
数字で可視化して示しながら、環境に
ついての区民の意識を醸成する施策として
具体的な 2 点の提言を行いました。





一点目は、福岡市を先行事例とした
公式 LINE 活用の提案。

二点目は、環境にやさしい消費や行動を
行った区民を応援する施策である「エコ
ポイント」の還元方法を、若者が使いやすい
電子マネー（PayPay 等）にしたらどうか
という提案です。

関連課からのフィードバック

提言の要旨	担当部（担当課）	説明・理由
中野区 LINE 公式アカウントを活用し、環境について情報発信できないか。発信内容について企画する機会を、来期以降の若者会議のプログラムとして組み込んではどうか。 →課題：区の環境に関する取り組みが若者世代の区民へ知られていない ・出産を機に LINE 公式アカウントを認知するケースがあるようで、お子さんをお持ちの若者世代にリーチしやすいと考える。 ・投稿内容はゴミの区分や環境を良くする暮らし方に関するコラム、環境課さんや区民主催の環境に関するイベントの告知を想定。 ・現在の LINE アカウント登録者は区民の 3.4%とのことだったので、公共交通機関など目の留まる場所へアカウント登録を促す掲示などを行い登録者を増やす動きも、広報課と連携して検討できないか。	環境部（環境課）	情報発信については、様々な手段があるため、LINEも含め情報発信ツールの拡大に努めていく中で、若者会議からの発信について、検討していく。 また、毎年11月に情報発信イベントのなかのエコフェアを開催しており、その中で若者会議のブースを出店していただくことも可能である。 令和 6 年度に既存のツールを活用し、既存イベント時期に合わせ、情報発信を検討する。 情報発信の内容については、今後若者会議と共に検討していく。
	子ども教育部（育成活動推進課）	単年度だけでなく、複数年度にわたって議論できるよう、事業運営及びテーマ設定を行う。
環境に貢献する活動に対して、PayPay や地域通貨といった還元方法を導入できないか。 →課題：環境によい行動を想起、発揮する仕組みが不足している ・環境イベント参加時、エコ家電への買い替え、ペットボトル回収などでポイントがたまる仕組を導入できないか。 ・たまったポイントは即時付与が可能な使いやすい還元方法として、PayPay や地域通貨が望ましい。	環境部（環境課）	現行のエコポイントを廃止し、デジタル地域通貨と連携して、新たな環境ポイントについて検討していく予定である。 令和7年度に、デジタル地域通貨との連携について検討する。

4.チャレンジする中高生を応援しよう

学校の枠を超えて「ハイティーン会議」へ集まった中高生の自主的な活動に伴走します。子どもたちが意見表明しやすいまちづくりのためのポイントを区へ提言します。

メンバー

しゅう　（社会人２年目）
だいき　（元ハイティーン会議）
ノブ　（中野区で先生してます）
みき　（中野区に単身で引っ越し）
しおん　（学生）

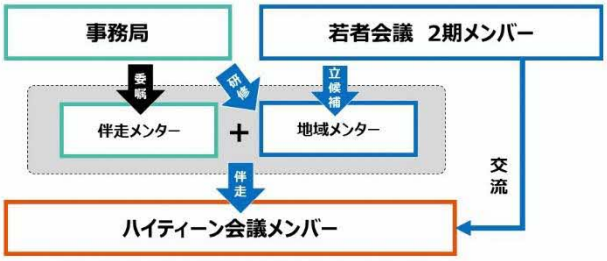
チャレンジのきっかけ

昨年から継続している１期メンバーを中心に、ハイティーンの可能性を強く信じるメンバーが集まりました。

アクションの内容と結果

時期	内容	補足
8 月	チーム結成	
9 月	中高生への関わり方研修	
10 月	ハイティーン会議の伴走 中野区関係者へのヒアリング	
11 月	ハイティーン会議のイベント実施サポート	
12 月	中野区関係者へのヒアリング	特に「中野区子どもの権利に関する条例」に注目してヒアリングを進めました。
12 月	ハイティーン会議報告会	
1 月	提言プレゼンテーション	

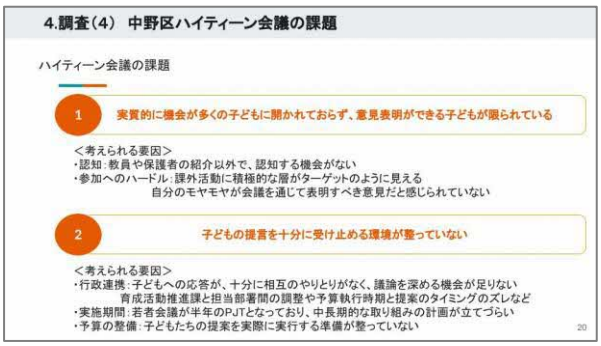
チャレンジのポイント



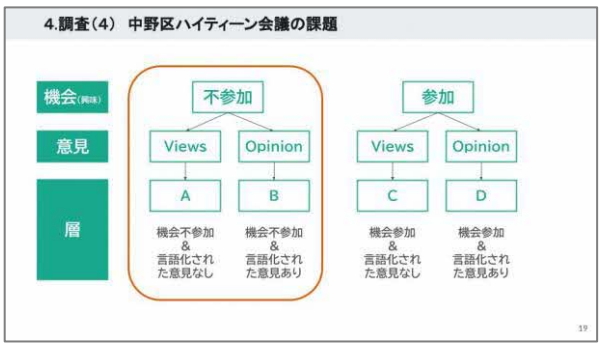
ハイティーン会議の「サポーター」として、ハイティーン会議事務局の「メンター」と協力しながら中高生のチャレンジを応援しました。

そのプロセスを通して、中高生が意見表明しやすいまちづくりのポイントを見出し、提言に結びつけました。

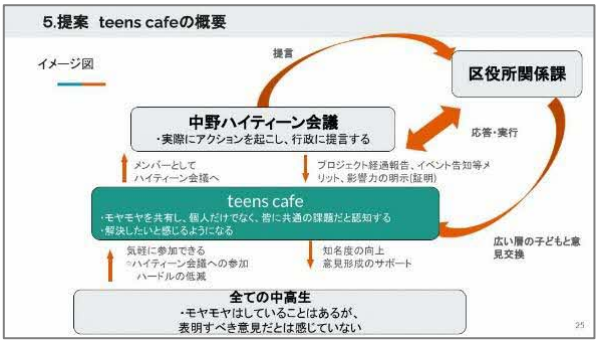
報告会での提言



中高生にとっての意見表明の機会としてハイティーン会議が重要であることを伴走の体験を通して発表する一方で、どうしても不完全な点が生じうるため提言に結びつけました。



特に、ハイティーン会議に参加しない/参加できない層の中高生の意見をいかにキャッチするかという点を強調。ハイティーン会議の機能を補完する場としての、気軽に話せる場「teens cafe（仮称）」について提案しました。



報告会での意見表明・関連課からのフィードバック

提言の要旨	担当部（担当課）	説明・理由
中高生のためのイベント「teens cafe（仮称）」を企画・開催できないか。 →以下案 ・目的：中高生の意見聴取、ハイティーン会議の広報 ・時期：2024 年 5～7 月頃 ー24 年度ハイティーン会議募集前と募集期間中 ・対象：中野区在住、在学の中高生 ー区職員、若者会議メンバーなども参加 ・場所：中野区役所新庁舎 1 階 ・運営：中野区 －若者会議、ハイティーン会議メンバーと連携 ・活動内容：テーマトーク、ハイティーン会議の紹介 －お菓子を食べながらゆったりと話せる場 ・その他：区立小中学校への出張 teens cafe などによる、 学校へのアプローチも検討 次年度募集ポスターに使用するプロモーション画像の撮影等にも活用可能	子ども教育部（育成活動推進課）	ハイティーン会議メンバーの募集に合わせ、事業紹介や「中高生の居場所」となるイベントを開催する予定である。（令和 6 年 6 月） 区立学校への事業周知方法については、引き続き検討していく。
意見表明において、中高生と中野区が複数回にわたってやりとりが行われる仕組みや場を実現できないか。 →補足 ハイティーン会議においては、中高生の意見表明に対して、所管課が返答することを実現した。しかし、返答に対して中高生が感じたこと・考えたことを伝えることはできないのが現状。1 回のやりとりではなく、複数回にわたって対話が行われる仕組みや場をつくるほうが望ましい。	子ども教育部（育成活動推進課）	チャレンジに関連している所管課と意見交換ができるよう、引き続き庁内の連携を図っていく。

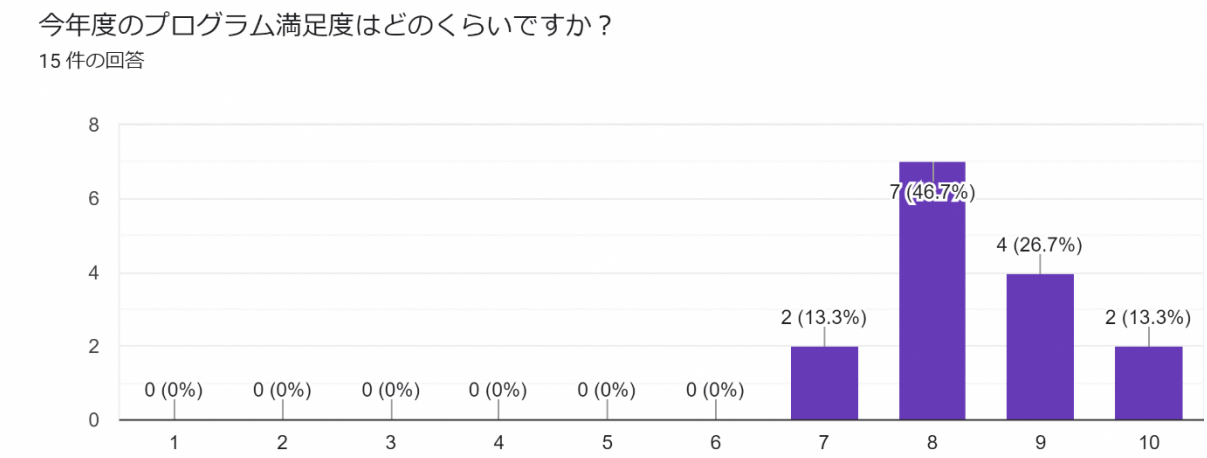
提言の要旨	担当部 （担当課）	説明・理由
ハイティーン会議の各チャレンジと、「teens cafe（仮称）」における場所・資金・スタッフを拡充できないか。 →補足 ・場所：区内施設利用の融通が効くとありがたい。 ・資金：資金があることで、実施可能なチャレンジが増える。各チャレンジへの資金分配と使用できる資金の可視化を求める。 ・スタッフ：teens cafe 運営に必要な人員。また、ハイティーン会議の各チャレンジの運営補佐。	子ども教育部 （育成活動推進課）	「中高生の居場所」となる事業の実施にあたっては、継続して開催できるよう必要な予算計上を行っていく。（令和7年度以降）
ハイティーン会議のチャレンジを継続できる仕組を構築できないか →補足 取り組むテーマやプロジェクトが引き継がれることで、より発展的なアクションが生まれたり、意見表明の質が高まる可能性がある。	子ども教育部 （育成活動推進課）	単年度だけでなく、複数年度にわたって議論できるよう、事業運営及びテーマ設定を行う。（令和 6 年度）

寄せられた感想

プログラムを終え、参加者はワークシートを活用した振り返りや、プログラム全体に対するアンケートに臨みました。 ここでは、寄せられた回答をもとに、2023 年度の若者会議 2 期に対する感想や評価を紹介します。

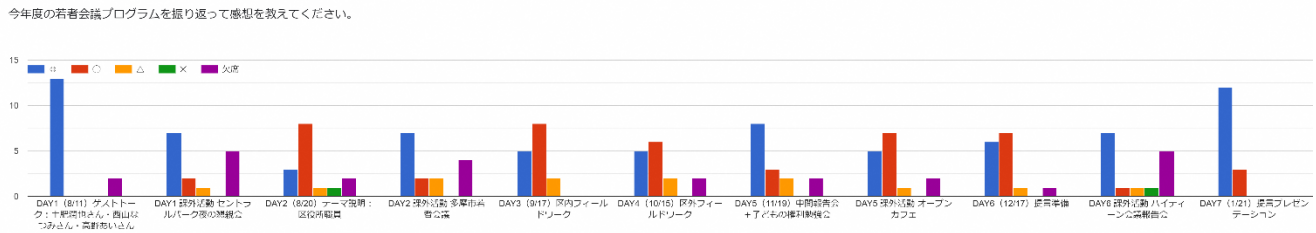
参加者アンケート（無記名）

若者会議全体に対する平均満足度：8.4/10



プログラムごとの満足度

初回の満足度がきわめて高いものの、提言を形にしていく作業が本格化する時期にはモチベーションにばらつきがあったことがわかります。その分、最終提言の満足度は非常に高いです。



全体に対する意見

プログラムについて

・テーマがまるっと決まっていて、どこをゴールにするかはチームに任せてもらった点。

・他の区の面白い事例を見れた点。また、ゲストのチョイスが良かったです。

・テーマが決まっていてやりやすかったです。

・初めから最後まで楽しんできました。

・中野区への愛着を持てた。ガクチカ（＝就職活動でアピールできる実績）になった。

・多くの人と関わることができた！

チームについて

・多様な人が集まったところは周知の点でとても良かったと感じてます。

・チームメンバーに恵まれた。

・メンバーがとても良かった。

・自分の持っていたテーマはやりきれた。今年のメンバーと出会えて良かったととても思えた。

・区内であまり繋がりがなかったため、若者会議をきっかけにいろいろな繋がりが生まれて本当に良かったです。

・一期を踏まえ、勉強会ができたこと。

・昨年から継続のメンバーが多く、仲間感が生まれてきた気がする。

・普段、関わることのない属性の方々とご一緒できたこと。

区との連携について

・担当行政からフィードバックが行われるようになったこと。

・昨年は伴走のみになってしまったところ、提言できて良かった。

・区長と対面して意見することができた。

・事務局の細やかな気配り、行政側の対応に感謝しています。

・区への提言が良かったところ。

メンターについて

・メンター制度にとても助けられた。去年と同じ仕切りでは到底やり切れなかった。

・メンターをつけてくださったことで、だいぶ負担感が軽減された。

・考えることをチームに任せられる良いメンターだと思う。素晴らしい。僕は口を出したくなる。

・若者会議のメンターの存在も、随時機会を作ってくれたり、ありがたかった。

・サポートしていただけてとても良かった。常にメンバーの意思を尊重してくれた。

・ハイティーンのメンターには安心して任せることができ、本当に助けられた。

・グループのメンターの方にも、忍耐強く議論を追って、体裁的なところの整備や、さまざま周囲を整備していただいて感謝です。

・メンターにすごく応援して頂きました。

・メンターがとてもよくサポートしてくれました。

・ハイティーン伴走のメンターがとっても頑張ってくれた！！運営も色々調整に苦労してるだろうな…というのが垣間見えつつ、この場をよくしてくれようというアクションが随時感じられた。

・物事の進め方がとても勉強になったから。

課題に対する意見

区との連携

・メンターは素晴らしかった。が、運営側へは疑問が残る点もあった。

・途中区役所の方と提言の方向性が合うのか不安になった。

・提言して終わりにしないように、継続的に活動できるか不透明ですが、引き続き頑張りたいと思います。

・提言後にプロジェクトをどう継続していくか。

・区側のスタンスが曖昧(一緒にプレイヤーとして関わった方がもっと良いものになったと思う)

・行政からのフィードバックの質がもう少しあがると良い(特にハイティーンはのらりくらりかわされてる感があった)

提言準備

・提言の工数は相当かかるが、ロジックは 1 から詰めたいところ、地域活動としてこのレベルのものを作るにはかなり属人的な努力が必要と思った。改善できるものではないかもしれませんが、、

・提言のターゲット選定に時間がかかる。

・提言のイメージが確固としてない(他と違って曖昧)な中、学びは多いものの、提言に活かすという意味でヒアリングの相手がドンピシャではなかったように思う。早い段階から提言の準備に入るべきだった。

・発表の瞬間はそこまでロジックが求められていないような気がした。どこまでの粒度で発表するべきか、もちろん議論は尽くしたいが、時間、工数の制限がある中、関係課と先に話しておく(粗々の発表予定を先にあててフィードバックをもらう等)できると良いかと思った。提出を早めるのもそれはそれで工数的に難しいかもしれないが。

チーム間の交流

・「若者会議内の他チームとの接点が少ない」という意見が 3 件寄せられました。

運営

・開催日時が土日休みの人向けスケジュールになっている点。

・単年度事業のため、持続性や継続性に問題あり。

・単年の事業年度に縛られたプログラム運営しかできないところ。

・アンバサダー制度の立ち位置の再検討。

観覧者アンケート

１月の報告会には、区長、教育長だけでなく、区議会議員、参加者のご家族、区役所関係者、他自治体や地域関係者など多くの方が観覧にいらっしゃいました。観覧の皆様からいただいたアンケートおよびコメントの一部をご紹介いたします。

	ご感想	発表者への一言メッセージ	運営について
次世代育成委員	楽しかったです。そして素晴らしかったです。1 期からの継続と新メンバー加入での刷新、実践を伴う検証と提言、発表者の自分ごととしての発言と、聞き手の自分ごととしての受け止め、プレゼンのテクニック、起承転結、などなど	私自身の仕事にも活かせる学びもたくさんありました。ぜひ、次回も参加させて頂きたいです。ありがとうございました。感謝	これからの継続と発展に期待しています。
次世代育成委員	若者の皆さんのお話しをリアルに聞かせていただき、また対話ができたことがとても有意義でした！	とても良いアイデアばかりで、中野区の将来が楽しみです！	中学校 PTA のイベントとコラボしたいです～
中野ハイティーン会議関係者	みなさんのプレゼンの情熱すばらしかったです！本気を感じて、勝手に感化されておりました笑！	半年間に及ぶ活動おつかれ様でした！！	
中野区役所職員	皆さんが自分の時間をこの取り組みに費やしたというところが何より感動です。	ありがとうございました!しっかり受け止め、考えていきます。引き続きよろしくお願いします。	真剣な検討を柔らかくプレゼンするこの仕立てに流石と思いました。
他自治体関係者	多摩市と全く環境が異なる中野区に非常に強い興味が持てた。また、ぜひ多摩市とも共創できる仕組みを考えたい。中野のパワーを分けてもらいたい。	堂々としたステキな発表でした。みなさん良い機会を経て、さらなる活躍を期待しております。	しっかりと伴走されていて素晴らしいと思います。メンバーの自主性を今後も支えてあげて欲しいと思います。
活動にご協力いただいた関係者	結局何をやりたいのかよくわからないことと、とっても面白いことの二つがあった。	おもしろかった！全体的に思ったのは発信の大切さ。そして発信には中身がないといけない。今思ってること、やってること、皆さんのリアルを発信してほしいほんとに。	
参加者のお知り合い	武蔵野市から参加しました。素晴らしい会だと思いました。なにより区長はじめ区の職員の皆さんが真摯に向き合っていること、これは一朝一夕にできるものではないのでしょう。武蔵野市もぜひ見習いたい、子ども主語の市政をつくりたいと強く思いました。	これからもぜひ活動を続けてください！	

若者がチャレンジする中野へ
青
・よかった点
・心に残った点
・共感した点
黄
・提案したいこと
・連携できそうなこと
・実現に向けたアドバイス

若者が地域と出会う情報発信とは？
青
・よかった点
・心に残った点
・共感した点
黄
・相談したいこと
・連携できそうなこと
・実現に向けたアドバイス

環境にやさしいまちづくり
青
・よかった点、
・心に残った点、
・共感した点、
黄
・提案したいこと
・心に残った点、
・連携できそうなこと
・実現に向けたアドバイス

チャレンジする中高生を応援しよう
青 よかった点、心に残った点、共感した点
黄 ・提案したいこと
・連携できそうなこと
・実現に向けたアドバイス

中野区は、若者のチャレンジを応援します。

若者会議 2 期の提言にこめられたヒントを、次のステップにつなげられるよう、事業を進めていきます。今後とも、みなさんのご参加をお待ちしています！